

農作物技術情報 第1号 畜産

発行日 令和8年3月19日
 発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
 編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当(電話 0197-68-4435)

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
 パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆牧草 1番草の収量を確保するため、施肥作業は「萌芽期」に行いましょう。
- ◆家畜 子牛の皮膚病が多くなる時期です。寒冷対策と栄養管理を励行しましょう。

1 牧草の早春施肥

イネ科牧草は平均気温5℃から生育を開始(萌芽)します。萌芽時に施肥を行うと、窒素の吸収量が増え有穂茎数が増加して収量が増加します。施肥が遅れるほど収量は低下します。

萌芽の目安は「草地全体の40~50%が緑色に色づく頃」です。ほ場のぬかるみがないことを確認して、速やかに施肥を行います。早春の施肥は、表1の施肥量を目安に速効性の化学肥料で行います。

今年も、春先の気温が例年よりも高く推移する予報が出ていますので、早めに施肥の準備を行い1番草の収量を確保します。

なお、萌芽からの気温と日照時間で出穂期が決まるため、出穂期を施肥時期で調整することはできません。



写真1 牧草の萌芽
(金ケ崎町、R6.3月中旬)

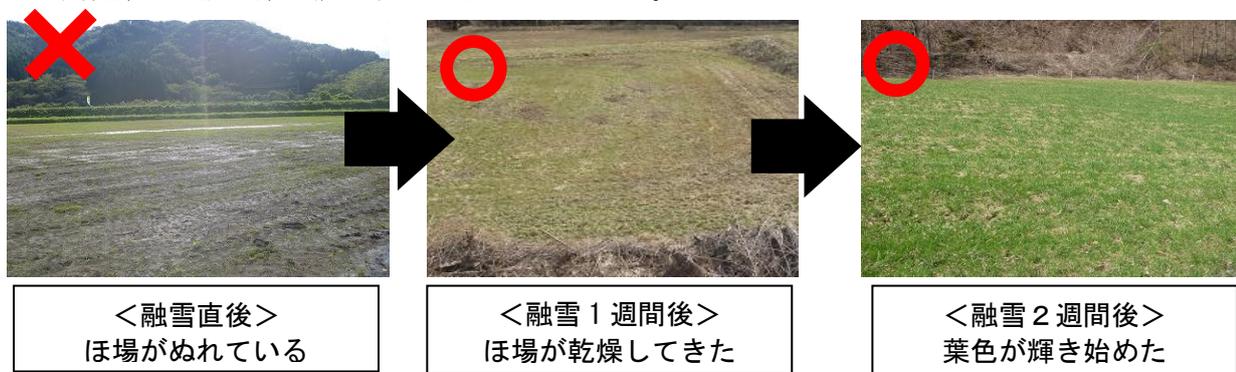


図1 早春施肥のタイミング

表1 牧草地の施肥基準(維持草地)

区分	草地種類	施肥時期	10aあたり施肥量(kg)		
			窒素	リン酸	カリ
採草地	オーチャードグラス主体	早春	10	5	10
		刈取後(最終刈取後除く)	5	2.5	5
	チモシー主体	早春	10*	5	10
		刈取後(最終刈取後除く)	5	2.5	5
放牧地		早春(牧草ほう芽期)	6	3	3
		夏期(7月)	6	3	3
	スプリングフラッシュ抑制	初夏(6月中旬)	6	3	3
		夏期(8月上旬)	6	3	3

「岩手県牧草・飼料作物生産利用指針(R2.5)」

*チモシー主体草地の利用初年度の窒素施肥量は、倒伏防止のため5kg/10a程度に抑える

2 子牛の皮膚病（牛白癬）対策

各種ストレスで免疫・抵抗力が低下すると、皮膚病も発症しやすくなります。

子牛市場の上場牛名簿に掲載された「皮膚病」の発生数をみると、冬期に増える傾向にあり、5～6月の発症が多くなっています。気温の寒暖差、牛床の汚れや栄養の過不足、親子分離などのストレスが重ならないように、飼養管理を見直すとともに、発症が見られた時には牛舎消毒を行います。

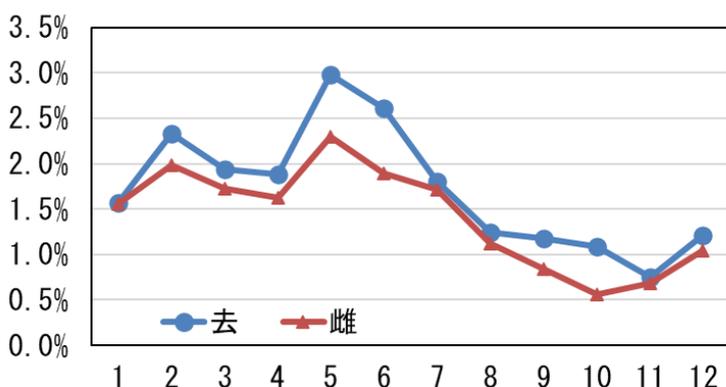


図2 皮膚病の発生割合（去勢・雌）
2018年4月～2026年1月の上場牛名簿より



写真2 皮膚病（牛白癬）の子牛

(1) 子牛の飼養管理

離乳や去勢、親子分離など、子牛の生長に伴う飼養環境の変化がストレスになります。去勢と親子分離を同時に行わない、頭絡を付けたつなぎの練習は短時間から始めるなど、子牛にかかるストレスが重ならないように管理します。

【子牛管理の見直し例】

- 気温の寒暖差 夜の防寒対策を継続する
- 換気の励行 暖かい時間帯には、窓や戸を開けて換気を行う
- 牛床の乾燥 汚れた敷料はこまめに除去し、寝床は乾いた状態を保つ
- 牛舎の移動 親子分離するときは、子牛は動かさず、親の居場所を変更する
- 餌の変更 スターターから子牛用配合飼料への移行は、糞などの様子を見ながら行う
- 良質な粗飼料 水分過多やカビ発生の無い、良質な粗飼料を十分に給与する
- 餌の給与順 離乳後は、粗飼料→配合飼料の順に給与して、ルーメン内の微生物を安定させる
- ビタミン、ミネラルの充足 ストレスによりビタミンやミネラルも消耗するので、増給する
- 水の給与 冬期は飲水量が落ちて脱水になりやすいので、ぬるま湯を不断給与する
- 子牛の群分け 過密にしない。群内で食べ負けないように、飼槽を増やすなどの工夫をする
- つなぎの練習 頭絡のサイズがきつくないか確認し、上場に向けたつなぎ練習を徐々に行う

(2) 牛白癬の原因と牛舎消毒

牛白癬の原因は、白癬（カビ）で、鉄柵に定着しています。罹患部がかゆくなるため鉄柵にこすると、かえって白癬の付着を増やすこととなります。鉄柵やチェーン、マセン棒の金具など、金属を中心に消毒します。

牛の罹患部への薬剤塗布については、獣医師の指示に従います。

【牛舎の消毒方法】

- 消毒薬「塩化ジデシルジメチルアンモニウム」剤を用意する
- 消毒薬を説明書どおりに水で希釈する
- 噴霧器で、牛が触れる金属製の鉄柵やマセン棒、チェーン、ボルト部分に消毒薬を散布する
- 1ヶ月目は週に1回ずつ、2ヶ月目は2週間に1回ずつ、合計6回、散布する

山火事防止運動実施中！ [2月26日]

[~5月31日]

「山火事を起こすも防ぐも私たち」

春先は野山が乾燥し、風の強い日が多くなります。林野火災の多くは人為的な原因で発生しますので、野外での火の取扱いには十分注意しましょう。

次号は4月23日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。